

## (資料7)

### 野間郵便局旧局舎 (のまゆうびんきょくきゅうきょくしゃ)

員数：1件

所在地：知多郡美浜町大字野間字須賀 91-1 他

所有者：個人

#### 1 登録理由

##### 野間郵便局旧局舎

知多半島南西部に位置する美浜町野間所在の元郵便局舎。洋小屋部と和小屋部からなる建物構成で、道路に面した洋館の外観を持つ、木造2階建の和洋折衷の建物である。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

#### 2 概要

##### 旧局舎

木造平屋一部2階建、スレート葺、建築面積 95 m<sup>2</sup>、建設年代 昭和6年

知多半島の西海岸に沿って南北に沿って走る国道に面する現野間郵便局舎に隣接して建つ。郵便制度が発足した明治初期、廻船問屋・味噌醤油製造業を営んでいた森田伊助が明治13年(1880)に5等郵便局初代局長として旧野間郵便局舎近くにある自宅の一部を事務室に改修して開局したことが始まりである。その後、明治19年(1886)には3等郵便局の業務を担い、明治20年(1887)に近くの場所に局舎を移転、さらに明治34年(1901)に道路並びの敷地に業務拡大に伴い洋風局舎を建設移転し、大正8年(1919)には名古屋逓信局の管轄局舎となる。

野間郵便局旧局舎は、伊助の孫の森田定吉が、昭和6年(1931)に現在の地に新家として建設し、普通3等郵便局3代目局長として引継いだ建物である。昭和16年(1941)には特定郵便局に改称し、昭和53年(1978)までの47年間に渡ってこの地区の特定郵便局として利用された。

木造平屋建(一部2階建)、桁行5間半、梁間5間に公衆室を半間突出させた平面である。建物の構成は、洋小屋部と和小屋部に分かれる。道路に面した洋館部は木造平屋建梁間3間のキングポストトラス<sup>1</sup>構造洋小屋造、残り二間部分を和小屋組造の木造2階建とした和洋折衷の建物である。主屋根の左右にドーマー窓<sup>2</sup>を載せる。左右にバランスよく配置された白い額縁のある縦長の上げ下げ窓が壁の中央に付く。古くから美浜町の町並に溶け込んでいる野間郵便局旧局舎は、新たな存在感と調和を図るため昭和初期の洋風建築に見られるスティック様式<sup>3</sup>を取り入れ、正面性を強調した和洋折衷の建物である。

出入口のある公衆室、その左に公衆電話室、右に局長室が隣接する。公衆室のカウンターを隔てた奥に広がる事務室、その洋小屋部奥に配する3室の和小屋部には、左に休憩室、右に郵便の仕分けをする発着室、そして中央に区分室、横から階段を上がると、2階は宿直室となる。

---

<sup>1</sup>キングポストトラス：下弦が三角形の底辺を、上弦が三角形の2辺を構成し、三角形の頂点から下弦に向けて垂直材を備える、最もシンプルなトラス橋。

2 ドーマー窓：屋根から突き出して設けられた採光用の窓。屋根窓。

3 スティック様式：軸組（柱や梁）を隠さず、建築のデザインに取り入れたもの。



野間郵便局旧局舎 東面外観（美浜町教委提供）



公衆室 北面から望む（美浜町教委提供）